

巻 頭 言

紀要発行にあたって

仙台青葉学院短期大学学長
鈴 木 一 樹

このたび本学研究紀要第12巻第2号を発行いたしましたので、皆様方のご高覧に処する次第です。

令和二年度は、何といても新型コロナウイルスに翻弄され続けた一年でありました。最近ではより感染力の強い変異株も現れ、ワクチン接種が開始されたとはいえ、不安な日々がまだしばらく続きそうです。今回の件では、様々な面で普通であることがいかに貴重なことであるかを思い知らされました。これまで当たり前に実施できていた対面授業ができなくなったことで対面授業の貴重さを実感している方は多いと思います。感染予防対策が徹底されていることも相俟って現段階では何とか対面授業を実施できていますが、今後、全面的にオンライン授業を実施せざるを得ない状況に陥る可能性は否定できません。

いずれにせよ本学にとって基軸とすべきは、「いかなる状況においても、学生の学びを止めてはならない。」ということです。今後も幾多の困難が待ち受けていることは誰もが容易に想像できますが、本学を選択し入学してきた学生の期待に応えるためにも、学生を成長へと導くための取り組みを鋭意工夫を重ねながら行って参りたいと思います。

本紀要では、看護学科・リハビリテーション学科・栄養学科教員による「原著論文」、現代英語学科教員による「研究論文」、ビジネスキャリア学科教員による「実践報告」、リハビリテーション学科・観光ビジネス学科教員による「研究報告」、観光ビジネス学科教員による「研究ノート」「資料」を掲載しております。前回も申し上げましたが、コロナ禍において業務に忙殺されながらも研究活動を進め本紀要に投稿された教員の方々には改めて敬意を表する次第です。今回の紀要の発行により本学の研究実績がまた積み重ねられたことを大変光栄に思います。

今後、本学紀要が学術誌としてさらに充実したものとなり、本学の知的財産がより蓄積され本学の発展に寄与することを期待し、私からのご挨拶とさせていただきます。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。